



愛知労働局長が働き過ぎ防止ベストプラクティス企業を視察訪問しました

愛知労働局では、過労死等防止啓発月間中の平成29年11月27日、木暮康二局長が日進市にある荒川工業株式会社（従業員数424名）を視察訪問し、坂井陽二取締役社長らと対談しました。

自動車部品の加工・組立等の事業を行う同社では、「持続可能な企業をめざしたヒトづくり・モノづくり」という経営基本理念を掲げ、働き過ぎ防止などについて労使で協議する定例会議「いい会社づくり委員会」を設置し、運営しておられました。委員会には役員、職制、組合、男女、様々な立場の従業員が参加し、会社としても委員の提案を積極的に取り入れ、現状の会社のしくみを変えていく風土改革に取り組んでおられました。



<いい会社づくり委員会の様子>



働き過ぎ防止活動として、スポット的な増産に対する製造部門の負担を軽減するために間接部門から応援する制度や長時間労働を行った際の勤務間インターバル制度の導入などの取組により、長時間勤務者が今年3月には昨年3月の5分の1に減少していました。

今後も、社長自ら月1回各部署を巡回する「トップ診断」等の取組により更なる長時間労働削減への決意をお聞きすることができました。

